

令和2年12月つくば市教育委員会定例会会議録

1 会議日時

令和2年12月24日（木）

2 会議場所

庁舎4階 会議室401

3 出席委員

教育長 森田 充
委員 鈴木 理子
委員 小野村 哲
委員 柳瀬 敬
委員 倉田 廣之

4 欠席委員 なし

5 委員以外の出席者

教育局長	吉沼 正美	特別支援教育推進室長	土田 圭子
教育局次長	中山 隆	教育相談センター所長	横田 康浩
教育局次長	貝塚 厚	総合教育研究所所長	板谷 亜由美
学校教育審議監	根本 智	生涯学習推進課長	伊藤 直哉
教育総務課長	笹本 昌伸	文化財課長	石橋 充
学務課長	間中 和美	中央図書館長	柴原 徹
教育施設課長	飯泉 法男	中央図書館副館長	松浦 智恵子
健康教育課課長補佐	川又 文江	企画監	澤頭 由紀子
学び推進課長	江尻 佳之		

6 傍聴人 3名

7 議事

(1) 案 件

報告第32号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（市長からの意見照会に対する回答について）

報告第33号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市立学校給食センター運営審議会委員の任命について）

8 会議の概要

◎ 開 会

午後 3 時 30 分開会

森田教育長	<p>それでは定刻になりましたので、ただいまから令和 2 年 12 月の定例会を開催いたします。</p> <p>お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。本日もスムーズな進行を努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。</p>
◎議事録の承認	
森田教育長	<p>最初に、議事録の承認ですが、令和 2 年 11 月の定例会分、委員の皆様には事前に御確認いただいておりますが、修正がないようでしたら、議事録をこのとおり承認することとさせていただきたいと思っております。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>はい。</p>
森田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、署名人は柳瀬委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
◎教育長の報告	
森田教育長	<p>続きまして、「教育長の報告」になります。議会の承認の内容と冬季休業についての 2 点を報告させていただきます。</p> <p>1 つ目、12 月議会の件ですが、12 月 3 日に開会されましたつくば市議会定例会においては、17 人もの多くの議員から教育に対しての質問・要望がございました。</p> <p>主な質問内容、御要望内容ですが、ここでは 4 点ほどお話をさせていただきます。</p> <p>まず、特別支援教育について、支援計画や宿泊を伴う校外学習への支援員の付添いについて質問がありました。支援計画については、保護者との十分な話し合いの基に行われている旨をお答えしました。それから、校外学習の参加や付添いについては、今後検討していく必要がありますが、コーディネーターが中心となってしっかりと検討調整をしていきたいと思っております。</p> <p>それから 2 点目は、学校開放の在り方についての質問がありました。地域の小中学校のグラウンドや体育館をもっと開放してほしい、それから希望する団体が多く、利用する時間帯が重なることがあるので、それによって使用できない団体もあるのではないかとということで、改善してほしいとの内容でした。この点については、利用できる施設などを考慮</p>

して、さらに利用しやすいように努力してまいりますとお話ししております。

3点目は、教員の働き方改革に関する実行計画について、業務に集中できる学校環境整備、教職員の業務適正化、学校における組織体制・マネジメント改善の現状などについて、質問がありました。この点については、計画を策定した後、半年単位で進捗管理を行っていますので、今後も見直し等を含めやっていきたいと思っております。実際、だいぶ先生方の意識も変わってきていると捉えているところです。

最後に、来年度から実施する学校給食費の公会計化についてです。これについては今、準備を進めているところです。

そのほかには、コロナ対応、新設校の学区、図書館授業、オンライン授業、公立幼稚園の在り方、登校児童生徒への支援、教育大綱など、多岐にわたっての質問をいただきました。教育行政が、大変注目されていることをまた感じた次第でございます。

続いて、大きい2つ目の冬季休業の件についてです。コロナウイルスの感染が確認された場合の対応の基準、判断の基準を見直しましたとお知らせをしていると思っておりますが、これからも保健所と情報を共有して、保健所の指導をいただきながら児童生徒の安全を第一に考えて対応をしていきたいと思っております。保健所の対応もやはり、その状況によって変化しているところもありますので、それに併せて今後の見直しをしながら進めていければと思っております。

それから、年末年始における感染症に係る連絡体制ですが、小中学校、義務教育学校は例年どおり12月25日から1月7日までを冬季休業としました。コロナウイルス感染症がなかなか終息しない中、冬季休業期間を迎えるわけですが、この冬季休業期間に感染者が出ることも考えられますので、年末年始においても連絡体制を整え、準備をしています。

仮に陽性者が確認された場合でも、陽性者個人の療養だけになりますので、臨時休校や学級閉鎖は、この冬季休業期間中については行わないこととなります。

報告は以上でございます。

では、今日の進め方ですが、次第にありますように、案件が報告案件2件でございます。2件についてはどちらも公開案件でございますので、今日は公開で進めさせていただきますが、よろしいですか。

委員一同

はい。

森田教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それから、今日は小野村委員と鈴木委員のお二人の任期期間中、最後の定例会になります。最後にお二人から 20 分程度お話をいただきたいと思っておりますので、御協力をよろしく申し上げます。</p> <p>それでは早速案件に入らせていただきます。</p>
<p>◎報告第 32 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（市長からの意見照会に対する回答について）</p>	
森田教育長	<p>では、報告第 32 号から進めさせていただきます。</p> <p>教育総務課お願いします。</p>
笹本教育総務課長	<p>報告第 32 号、臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について御説明いたします。</p> <p>議会の議決を経るべき教育関係の議案作成に関する市長からの意見照会に対しまして、別添のとおり同意する旨回答しましたので、御報告いたします。なお、意見照会のありました内容ですが、こちら職員の職務上の過失に係る事故の和解となります。こちらは学校での除草作業中に起きた事故となります。詳細につきましては、添付されています専決処分書のとおりとなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
森田教育長	<p>では、ただいまの内容について、質問や確認事項がありましたらお願いしたいと思います。</p> <p>柳瀬委員お願いします。</p>
柳瀬委員	<p>前も一度確認したんですが、学校管理員さんの件で、職員と書いてあります。一般的には教職員という言い方の時に、教員と職員と考えるのかなと思ったんですが、ある方から教職に当たる職員という意味で教職員という考え方もあると指摘を受けました。</p> <p>厳密に、教職員と言ったときは教員と職員という理解でいいですか。</p>
笹本教育総務課長	<p>学校管理員につきましては、つくば市の正規の職員、もしくは会計年度任用職員を、つくば市で配置していますので、つくば市の職員という位置付けになっています。</p>
柳瀬委員	<p>色んな文章の中で、教職員と教員というのを使い分けているんですが、教職員といった時の意味は、教員とそれから職員の両方という意味</p>

<p>笹本教育総務課長</p> <p>柳瀬委員</p> <p>森田教育長</p> <p>柳瀬委員</p> <p>森田教育長</p>	<p>ですね。</p> <p>はい、そうです。</p> <p>教職にある職員という意味で、教職員という言い方はしますか。</p> <p>一般的にはあまりないと思います。文部科学省の調査も教職員と言って、事務職員も入れています。</p> <p>はい、分かりました。ありがとうございます。</p> <p>ありがとうございました。ほかにはございますか。</p> <p>それではないようですので、次に進めさせていただきます。</p>
<p>◎報告第 33 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市立学校給食センター運営審議会委員の任命について）</p>	
<p>森田教育長</p> <p>川又健康教育課課長補佐</p> <p>森田教育長</p> <p>柳瀬委員</p> <p>川又健康教育課</p>	<p>続いて、報告第 33 号です。これは健康教育課、お願いします。</p> <p>報告第 33 号、臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について、つくば市教育委員会の権限に属する事務の委任及び代理に関する規則第 3 条第 1 項の規定により、教育委員会を代理して事務を処理したので、同条第 2 項の規定により、次のとおり報告をさせていただきます。</p> <p>11 月の定例教育委員会で学校給食センター運営審議会の委員につきまして御承認いただきましたが、1 名欠員でしたので、そちらの報告書記載のとおり令和 2 年 11 月 30 日付けで任命しました。</p> <p>以上、よろしく願いいたします。</p> <p>ただいまの説明に、何か質問や御意見等がありましたらお願いしたいと思えます。</p> <p>柳瀬委員お願いします。</p> <p>先月の定例教育委員会で、学校給食審議会が、学校給食センター運営審議会になったと。しかし、審議する内容は学校給食審議会を継続したものかどうか確認してくださいと言ったんですが、そういう考えでよろしいですか。</p> <p>大丈夫だと思います。</p>

<p>課長補佐 柳瀬委員</p>	<p>つまり、給食センターの運営を審議するというよりも、そのことももちろん大事だが、どういう学校給食にしたいのかを広く一般的に捉えた上で、学校給食センターはこういう形がいいのかと審議しないと、肝心の目的が抜けてしまうのではないかという質問をしたんです。</p> <p>条例の中身を見ていないので、それが書き込まれていれば問題ないと思います。</p>
<p>川又健康教育課 課長補佐</p>	<p>給食センターの重要な事項について審議するという事になっております。</p>
<p>柳瀬委員</p>	<p>そういうことであれば、安心いたしました。</p> <p>同じような例で、市民交流センターの運営の条例とか、色んな条例があると思います。今日は生涯学習の話も出るかもしれませんが、そういう大きな生涯学習の中に位置付けられているものだから、そういう大きな目標の上に各交流センターの運営について検討しなければいけないと思うんです。</p> <p>言っている意味が分かっただけであればいいと思うんですが、そこは必ず押さえておきたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>森田教育長</p>	<p>大事なところだと思います。ありがとうございます。</p> <p>ほかにはございますか。</p> <p>では、次に進めさせていただきます。</p> <p>今日の案件は以上になりますので、「その他」に入らせていただきたいと思います。「その他」の中で説明させていただきたい内容がありますので、その点から、まず進めさせていただきます。</p>
<p>◎その他</p>	
<p>森田教育長</p>	<p>まず、生涯学習推進課の成人の集いについてお願いします。</p>
<p>伊藤生涯学習推進課 長</p>	<p>この度、来年の1月10日、成人の集いを実施するに当たりまして、皆様に御案内差し上げるとともに、説明をさせていただきたいと思っております。</p> <p>毎年実施をしていますが、今年度コロナ禍の中で、今まで1回で行っていたものを、午前と午後の2回に分けて、ソーシャルディスタンスを取りながら、参加者の安全を確保し実施をしていきたいと考えております。</p>

す。

会場はつくばカピオで実施をします。今までは、保護者の見ていただく場所もスペースを取らせていただいたのですが、今年度に限りましては、なるべく会場での間隔を広く取りたいということもありまして、新成人のみで実施をしたいと考えております。

内容については昨年同様で、思い出VTR、各学校出身者の写真を集めまして学校ごとに放映をするものと、新成人の誓い、それから、主催者、市長の挨拶、アトラクションで、30分程度の式典を考えております。

対象者が2,747名。例年ですと1,800人程度の参加になると見込んでおります。主催は成人の集い実行委員会とつくば市、つくば市教育委員会になります。報道でももう御存知だと思いますが、12月17日に入場券を配布いたしまして、最終決定を1月4日にさせていただく予定でおります。会場等のコロナウイルス対策は、万全を期していきたいと考えております。

今回、警備の体制ですが、つくば警察署の協力を得まして実施をしていきたいと思っております。警備員と警察官、市職員の180人で行います。今までは市民の会や青少年相談員の方、地域の方にも御協力をいただいていたのですが、やはりコロナ禍ということもございますので、警察、それから警備員、職員で対応をしていきたいと思っております。

また例年どおり道路を規制させていただきまして、通行止めをさせていただいて安全を確保して実施をしていきたいと考えております。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインを作成しまして、式典が円滑に行えるよう、新成人の門出を祝ってきたいと思っております。

以上でございます。

森田教育長

成人の集いについて、質問、確認事項がありましたら、お願いしたいと思っております。

よろしいですか。

では、そのように進めさせていただきますので、また何か変更がある場合にはメール等でお知らせをさせていただきます。

次に、第3次つくば市生涯学習推進基本計画の案について、このパブリックコメントの実施について説明をお願いします。

伊藤生涯学習推進課

この度、第3次生涯学習推進基本計画が審議会を通りまして、その後

長	<p>の庁議を経まして、パブリックコメントを実施することといたしました。</p> <p>その流れでございますが、令和元年に生涯学習審議会へ市長が諮問をされまして、それを受けましてトータルで10回程度の審議会を実施させていただきました。この間、コロナ禍もありまして、実際に開けないものに関しましては、意見交換で、こちらから資料を流させていただいて、それで意見を聴取して実施をさせていただいております。ついこの間、審議会を通りまして、パプコメにかける前の庁議に諮らせていただいたところでございます。</p> <p>資料の2ページでございます。「つながる、広がる、つくばの生涯学習」を基本理念に、市の教育大綱、戦略プラン、未来構想を踏まえて作りました。基本方針ですが、2ページに書いてある「誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進」と、「学びの力をいかすことができる生涯学習の推進」ということで作らせていただいております。</p> <p>柱に関しては、3ページに挙げている「多様な学びの実現」と、「誰一人取り残さない生涯学習」。それから、2番としましては、「地域で学び合う生涯学習」、「『社会力』を持った人材の育成」という柱を建てました。</p> <p>各事業、各課における事業ですが、今までは、幅広く各課において事業を展開させていただきましたが、今回の事業に関しては34事業に絞り込みました。34事業を実施する中で成果の上がる事業を展開していきたいと考えております。</p> <p>パブリックコメントですが、来年の1月4日から1月31日までの期間で実施します。その意見を聴取しまして再度、生涯学習審議会にかけまして、そこで手直しをさせていただいて、発行したいと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
森田教育長	<p>生涯学習推進基本計画の案について、または、この進め方についての確認事項、質問等がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがですか。</p> <p>小野村委員お願いします。</p>
小野村委員	<p>教育振興基本計画の方で精一杯で、こちらまでよく目を通せていないんですが、20ページの平成28年から令和元年の第2次計画における評価の一覧のところ、令和元年については評価事業数73のうち68がBと</p>

伊藤生涯学習推進課長	<p>ということですよ。</p> <p>この一覧はあるのですが、どの事業がSである、Bであるということは、どこを見たらそれが分かるんですか。</p> <p>この計画の中では添付されておられませんので、各々議事録で公表させていただきます。</p>
小野村委員	<p>これを見ると、どれがどうなのかなと知りたいと思うので、もしできれば、この中に入れなくても、例えばその下にURLを入れておいて、ここから一覧で確認ができますとなっているといいのかなと思います。</p> <p>併せて、これを見たときに、令和元年などの評価では多くの事業の総合評価がほとんどBで、前にも話題になったかと思うんですが、どういう観点でこれがAなのか、Bなのか、これだけを見ると疑問に思ってしまう。そのあたり、この間の教育振興基本計画の中でも今後の課題であったと思います。本当に難しいことだと思うんですが、毎回これを見ると、首を捻ってしまうところがあります。</p>
伊藤生涯学習推進課長	<p>そういうこともあるかと思いましたが、今まではそういう形で評価して、各課が事務事業評価をします。その事務事業評価で挙がってきたものを審議会で審議して評価をする形だったのですが、数が多すぎて各課によって幅広い観点で事業の評価をしてしまうので、生涯学習に特化した形での評価も必要になると考えまして、この度は各課に出向いて、事業をこういう形で評価していきましよう話し合いをさせていただいて、新しい第3次の基本計画につなげていきたいと考えております。</p> <p>総花的な評価をして、アンケートでも謳ってはいるのですが、どうしても、良くなってきているのですが、改善されたという実感がないと思います。市民が実感できるものにしていかないと、計画にならないと考えました。総花的ではなくポイントに絞った、実感を持ってもらうのを、この5年間で頑張りましよう。その実感が5年間で出たら、次の項目に移っていきましようという計画が作れば、少しずつですが、着実に積み上げていくことが必要であるなど考えまして作らせていただきました。</p>
小野村委員	<p>分かりました。</p> <p>この観点についてお話いただきましたが、そのあたりも示していただ</p>

<p>森田教育長</p>	<p>けると、そうやっていらっしゃるんだったら、ここで書いておかないと誤解されちゃうと思います。</p> <p>あと、意見ですが、最近、私と同世代の男性の犯罪をよくテレビで見ますが、同世代の人間として見ていて思うのは、やはり寂しいんだと思うんですね、みんな。ここを見ていても、やはり時間がないと言って生涯学習に参加できないと言っている人たちが、仕事が終わったときに、自分の居場所を見いだせないということで、そこでストレスをためて、イライラして誰かを殴ってしまう。そういうことになることを考えると、今後の地域の安全とか、一人一人が輝いていくことを考えると、本当にこの生涯学習は大事だと思うので、ぜひ今後、ますます注力していただけたらなと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。ぜひそのように進めていければと思います。ほかにはございますか。</p> <p>柳瀬委員お願いします。</p>
<p>柳瀬委員</p>	<p>私は全部ちゃんと読ませてもらいました。</p> <p>その上で、先ほどの小野村委員が言われた評価ですが、これは自己評価ですよ。各担当課が、まず自己評価し、生涯学習推進本部が機能して、それから審議会がある。戦略プランについては、私も委員で関わったのですが、その各部署から挙がってきたものに対して、トータルで戦略プラン上の評価をするというのもやったと思います。</p> <p>でも、自己評価のところでは、評価というのが後でも出てくるかもしれないが、客観的な評価はなかなか難しいですよ。これだけ多岐な分野にわたっているので、各部長等で構成される生涯学習推進本部が設置されて運営するということですが、どれぐらいの頻度でそれをやっていくのか。これまでの反省を踏まえて、今後充実していく方向性が出せるかどうか、ちょっとお伺いしたいと思いますが。</p>
<p>伊藤生涯学習推進課長</p>	<p>まず、各事業での担当課の実績で、今までは事業評価に連動していましたが、今回は事業評価と連動せず、別に定めた目標で評価する形にさせていただきますので、まず独自の課で評価をしていただきます。それを生涯学習審議会にかけさせていただきますので、その中で、個別にまず各々評価を、それが正しい評価なのかどうかをかけさせていただきます。推進本部、各部長クラスの本部でかけるという段取りは、今までと</p>

	<p>変わりはありません。回数も一番上の推進本部にかけるのは、年1回で、事業評価が終わった段階でかけるのも変わりはないです。</p> <p>なので、どこで実際の評価をしていくのかとなると、審議会になるかと思えます。生涯学習審議会の中では、個別の事業の成果を一つ一つ説明をさせていただいて、それが妥当かどうか評価をいただきます。妥当でなければ、どのような実施方法があるのか、改善が必要なのかを問いていく形になります。</p>
柳瀬委員	<p>それだと推進本部の機能は弱いですよ。つまり、生涯学習課がやる事業に関しては、もちろんやるんだが、芸術文化とか障害福祉課なども入っていますから、障害者の生涯学習とか、そういうものにきちんと横串を入れて、お互いで連携できるところは連携するとか、情報交換するというのは、各担当同士ではできているんですか。</p>
伊藤生涯学習推進課長	<p>現実的に評価が低く抑えられてしまった。要するに実績が伴ってないとなると、審議会の方でも改善という形で出されますので、その中でまず、その担当課に話が行き、その中でどう改善していくのかとなると、自分の課だけでは難しいことであれば、ほかの課と連携をしていくことは可能であると考えております。審議会でも、そういう審議をしていただいて、この課だけでは不十分であれば、そういう連携をしながら高める作業をなさいという形での提言は出していけると思うので、そこは可能であると考えています。</p>
柳瀬委員	<p>申し訳ありません。審議会ですら恐らくそこまで具体的な事業の内容については、関わった方は分かりますが、ほかのところの内容については分からないので、どう連携していいかはなかなか出てこない。これは現場の担当者同士がきちんと話さないと、連携も出てこないと思います。</p> <p>例えば、私がずっと関わっている、チャレンジアート、生涯学習課でやっている事業について、これは障害福祉課だけでやっていて、同じ障害でも生涯学習の方とか、あと学校と連携したいとこれまでも提案はしますが、ほとんど連携は取れない。芸術文化も、もちろん関わってきますから関わってほしいのですが、連携は取れない。生涯学習のこの分野に関しては、これは最大のネックになっていて、市民のニーズに十分応えられていないと書かれていますが、そのニーズの中身について深入りしてほしいなと思うんです。</p> <p>付け加えて言えば、ニーズはたくさんあるんだが、では実際に、市民</p>

	<p>協働の事業をやっていますかと。市民協働のところになると、がくんと数字が下がってでてくる。前回のアンケートよりも下がっているんです。ということは、市民協働プラス各部署間の連携が足りないという評価を受け取ったんです。そこにどうやって次の一步を踏み出すかというところは、推進本部を年に1回やりますでは出てこないと思います。</p>
<p>伊藤生涯学習推進課長</p>	<p>現実的に行政の中でそういうふう運営にされているという部分は当然あるかと思います。</p> <p>ただし、下がったものを上げるために何をしなきゃいけないのかは、アンケートがある以上はある程度見えてきているはずですが、それを各課と協力しながら、協議しながら、それをアップしていくような資質を持っていかないと、きっと上がらない。先ほど言った5年間というのが、申し訳ないですが、2次を作った今回までの5年間と変わらないとなると、計画の意味がないと思いますので、そこは当然、委員がおっしゃるように各課での連携、だから部長職に言わないからできないのではなくて、各課での連携を率先させていくように、生涯学習推進課がどんどん進めていかないと、逆に現場では動かないのかなと考えています。</p>
<p>柳瀬委員</p>	<p>34 事業に事業を整理したということですが、これは統合して 34 にしたのですか、それとも削って 34 にしたのですか。</p>
<p>伊藤生涯学習推進課長</p>	<p>色々です。</p>
<p>柳瀬委員</p>	<p>色々ですね。そこが非常に重要なポイントで、やはり連携して統合して 34 にしたんだったら、それは期待を持てると思うんです。ただ重点的にここをやりましょうと 34 に絞っただけだしたら、さっきおっしゃられたような、次の展望というのは見えてこない。それはやはり 34 事業にしたことの中身を分かるように積極的な意味をもう少しアピールしてほしいなと思います。</p> <p>ただ削ったわけじゃないんですよね。</p>
<p>伊藤生涯学習推進課長</p>	<p>もちろん事業展開できる、先ほども言ったように市民からのアンケートに応えられるようなものとして事業を絞り込み、そこに集中していると考えております。</p>

柳瀬委員	期待しておりますので、どうかよろしく願いいたします。
伊藤生涯学習推進課長 森田教育長	<p>よろしく願いします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ほかにはございますか。</p> <p>倉田委員お願いします。</p>
倉田委員	<p>今、柳瀬委員からもありましたが、これはなかなか難しい。最終段階の評価が審議会で適切に評価できることが大切だと思います。そのためには客観的な評価が必要だと私も思います。だから、評価の基準とか、観点の明確化とか、あとは評価内容の分類、これもその事業によって非常に難しいものもあると思うので、そこら辺がどれだけ分かっているかも非常に重要になっていくと思います。評価する方は、自己評価が甘くないか、きちんとやっているか問われるのですが、そこら辺がこれからも課題だと思います。</p> <p>以上です。</p>
森田教育長	<p>大事な視点だと思います。ありがとうございました。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>今のアドバイスを参考にしながら進めさせていただきたいと思いません。</p> <p>では続いて、第3期つくば市教育振興基本計画の案についての説明をお願いします。</p>
笹本教育総務課長	<p>令和3年度からの5年間、本市教育において重点的に取り組むべき施策等を定める第3期つくば市教育振興基本計画の案がまとまりましたので、御報告させていただきます。</p> <p>9月、10月の教育委員会定例会で、委員の皆様からもいただきました御意見等を基に、11月9日に開催しました第4回策定委員会で「計画の枠組みについて」が概ね決定し、その後、11月27日に第5回、12月17日に第6回策定委員会を開催させていただきまして、素案について、策定委員会で慎重に協議、御検討いただき、現在お手元にある計画案をまとめさせていただいております。</p> <p>計画の中身は、今年3月に策定されました教育大綱を具現化、具体化していくため、基本理念に「夢に向かってよりよい未来をひらく『学</p>

	<p>び』の実現」を掲げまして、各人の違いが受容され、人と人がつながり、全ての人が、自分の好きなことや夢に向かって学ぶことができる教育を目指す。こういった形の理念を掲げて計画の策定をさせていただきました。</p> <p>今後のスケジュールですが、来月 20 日ぐらいを目安にパブリックコメントを実施して、パブリックコメントの意見がまとまりましたら、策定委員会を開きまして、その後、3月の教育委員会において、審議決定いただく予定で進めたいと考えております。</p> <p>以上、御報告になります。</p>
森田教育長	<p>教育振興基本計画についての御意見がありましたら、お願いしたいと思います。質問事項でも結構です、お願いします。</p> <p>小野村委員お願いします。</p>
小野村委員	<p>最初からすると随分修正を加えていただいて、良くなってきていると思います。私自身、今週はずっとこれと毎日向かい合っているんですが、一番よく理解できないページが 14 と 15 ページです。端的に伺いたいののですが、「つくば次世代型スキル」に書いてある「分類」と「種」。そもそも、これは「シュ」と読んだらいいんですか、「タネ」と読んだらよろしいんですか。この意味がよく分からなくて。種類とすると、種類に何で「つくば市民」が入ってくるのかはよく分からないんですが、これは何と読むんでしょうか。</p>
江尻学び推進課長	<p>「シュ」で、私たちは考えていたんですが。</p>
小野村委員	<p>そうすると、「シュ」として、ここに書いてある項目の意味がよく分からないんです。</p>
森田教育長	<p>この表ですね。</p>
小野村委員	<p>はい。</p>
柳瀬委員	<p>本文でも、「4分類6種」と書いていますね。</p>
森田教育長	<p>鈴木委員お願いします。</p>

鈴木委員	<p>私も小野村委員と同じように、14、15 ページは、とても気になるところです。どう気になるかという、今、小野村委員からもあったように、恐らく、上手く説明できる方がいないのではないかなと思っています。あと、本文の内容も前回の計画のことを書いていますね。</p> <p>例えば、その中で「ICTを活用して7つの資質能力を育成する」とありますが、この時はICTを強調したかったんだろうと思うんですが、読んでいくと、「ICTを活用して」じゃないですね。ICTは道具なので、こういう書き方も恐らく前のまま残っているんだと思います。よくよく読み込んでいくと、何を言っているのか理解しがたいと、14、15 ページは思っています。</p> <p>ここに載せる以上、学び推進課の課長をはじめ、幹部の先生方、上手に説明ができなければいけないですよ。恐らく策定会議でも議論が尽くされていないところだと理解しているので、このまま通せないと思っています。</p> <p>柳瀬委員いかがですか。</p>
柳瀬委員	<p>委員の皆さんには事前に、私はこう修正したら分かりやすいのではないかと最低限この内容を尊重して、それでもこう組み替えた方がいいのではないかというのは出させていただきました。今日は入ってないですか。</p>
森田教育長	<p>今日は入れてないです。</p>
柳瀬委員	<p>今おっしゃられたようなことを、やはり整理しなければいけなくて、そのICTの活用については、「全ての子どもたちの可能性を引き出す」の本文の中の真ん中辺りに「これらの学びの推進には、ICTの活用も効果的であり」と書いているわけですから、ここに入れると、ICT活用については流れとしては説明がつく。</p> <p>それから、今の小野村委員が言われた次世代型スキルについては、これは、私は理解できない部分もたくさんあるので、これはもう別の機会にきちんと説明してもらったらいかなと思います。どうしてもこの基本計画の中に入れたいというのであれば、修正なり説明をもうちょっとできるような形でしていかなくちゃいけないと思うので。</p> <p>すごく難しいことを書かれていて、一般市民からすると客観的思考力もそうですが、創造力、そして革新性と言われても、一つ一つの概念自体が論文を書けるような中身なので、重たすぎるかなと思います。それ</p>

は総務の方で参考にしていただいて、尊重した上で、こう並べた方が分かりやすいという修正案は出しました。

それから、教育大綱の2本の柱のもう一つの社会力については、やはりここでも書いてほしいなと思います。私はつくば市民としての力、つくば市民というところに社会力を入れて、それからその後の次世代スキルですね。地域や国際社会への市民性と書いている、この市民性も非常に難しく、私が14、15ページで一番気になった言葉は共感力です。

最終的に、地域なり世界なり、困った人たちとか、文化の違う人たちのことを理解する共感力がすごく大事だと思っていて、それが市民性という言葉では弱くて、もし修正が可能ならば、そこに共感力という力を入れていただけると嬉しいなという提案をしました。

もう一つ。前段階でも、学びのここはこれから始まるんだと書いているので、発信型プロジェクト学習のところの課題を見つける、情報を集める、何ができるか考え、発信する、それが次世代スキルですよという、この矢印はちょっともう外していただいて、市長のおっしゃる、これから始めるという、そこが大事なんだというところを強調してほしいです。

そうしますと、やはりスキルですから、つくば次世代型スキルの育成というのは、非常に大事なんですが、スキルを目的にすると、目的と手段を逆転してしまう。ここはつくばスタイル課におけるプロジェクト学習の推進と実際にやることを謳っておいて、色んな勉強をする中で、つくば次世代型スキルが育成されてくるんだという流れじゃないと、最初につくば次世代型スキルを育成しますと言っておいて、そのためにつくばスタイル課をやっていますよと言うのは逆転なんです。そこだけは最終的には私は許せないかなと思っています。次世代型スキルとか、ICT教育も尊重した上で、目的と手段だけは逆転してほしくないと考えています。

なぜかという、現場の先生方がスキルに先に行ってしまうと、これをコンピュータを使って発表して発信させなきゃ。発表することばかり考えて勉強することになっちゃったら、これは本末転倒なんです。発表まで至らなくても、なかなか、君、いい問いを出したね。いろいろ考えたね。勉強したよね。発信まではいかなかったね。でも、僕はそれを評価していかないといけないと思っていて。そこにやはり共感力がないと駄目だと思うんです。

その真ん中と結果が先に来ちゃって、コンピュータをこうやって上手く使いました。発表が上手くできましたねというところから、逆に何を

森田教育長	<p>勉強しようかというのは逆なので。そこを、市民もその辺は感じ取ると思うので、最終段階までには皆さんに検討していただければと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>倉田委員お願いします。</p>
倉田委員	<p>今、柳瀬委員からもありましたが、やはり、教員対象でのスキル、学習の図式なのですよね。ですから、一般市民の方は、これを見てもなかなか分からないと思います。</p> <p>だからここのつくば次世代型スキルの育成も、結局、P D C Aサイクルを誇張して、こういう方向でということに変形して作ったものなので、そこら辺が理解しづらいと思います。教員への説明の時には、それはきっと分かると思いますが、一般の方はどういう関連で、これはどういう意味なのかというのが分からないと思うので、ここら辺を載せるときには、上手く表現し直した方がいいのかなと思いました。</p> <p>これは、私が終わった後ぐらいに、この考え方を図式化したものなので、私は分かるんですが、教員以外の方は、これを初めて見たときに何だろうと思うかもしれないです。</p>
森田教育長	<p>ほかにはございますか。</p> <p>小野村委員お願いします。</p>
小野村委員	<p>先ほど申し上げたように、「種」ですね。</p> <p>「種」は見ていてかなり厳しいかなと思います。なぜ「種」に分ける必要があったのかという必然性がまず分からないです。「種」につくば市民とか入っているのがあるし、「力」というのはスキルのことを言っているんだと思いますが、そこに「革新性」という言葉も入ってきたりとか、「市民性」ってスキルですかね。この辺がごっちゃになっていて、見ていて流れが分からない、何がどうしてこうなるというのが、私も策定委員の1人として、ここを整理しようと思ったんですが、どうにも整理がなかなかつかなくて、どこをどう整理したらいいんだろうと、随分悩んでいたんです。</p> <p>例えば、これがどこかの学会で発表されていたら、私は多分、「この『種』って何ですか」という質問をしたいと思います。どうしてつくば市民が「種」に入っちゃうんですかという質問をされたときに、やはり</p>

	<p>しっかり答えられないといけないかなと思いますし、1つの案としては、もうこれは、取りあえず、その「種」という真ん中のところを除いて分類が力としても差し支えないのではないかなと思うんですが、いかがでしょうか。</p> <p>全体的に、このページは非常に文字数が多くて、それを考えると、例えば、14ページの「これまでの40年間ICT活用を推進してきました」というのが、次のページにも、また「つくば市では40年以上前から」と重複がありますので、この辺の重複を少し整理して、柳瀬委員からもあったように、最後のつくば7C学習というところを、この間、コミュニケーション能力とか、批判的思考能力を直していただいたんですが、ここがなかなか、先ほど柳瀬委員からもあったように難しいです。ここでどうしてまた7つのこれが来て、その一番最後に「これらを通して、『つくば次世代型スキル』を育みます」という、これらって何を指しているのかなと考えたときに、これはどこですか。普通は文法的に考えると、これらというのは、その目の前にあるコミュニケーションとか、そういうものだと思うんですが。</p>
柳瀬委員	そこが入れ子状態になっちゃっていますね。
小野村委員	そうなんですよね。この「これら」って何なんだろうというのが、よく分からなくて。
森田教育長	<p>整理をさせていただきたいと思います。</p> <p>入れたいこともたくさんあったのですが、まだまだ整理できていないところですね。</p>
柳瀬委員	細かいところは色々あるのですが、どうでしょうかね。
森田教育長	では項目だけ、このところとっていただければ。
柳瀬委員	<p>14ページ、15ページ以外では、20ページ「非認知能力を高める学びの充実」のところで、「子どもたちの社会性を育むためには」と書いてあるんです。門脇先生が、ずっと社会性と、社会力は違うんだと言っていたので、ここは子どもたちの社会力を入れてほしいなど。社会性といったときには、やはり社会に適応していく力のようにどうしても思われてしまうので。</p>

	<p>それから、冒頭で、学校管理員さんのことは、どうしても気になっていと言ったんですが、33 ページから始まる「教職員を支援する」のところで、ここで教職員と謳っているので、職員の充実について、ここで書いていますよね。様々な外部人材との連携とか、働き方改革のところでも多様な主体が支えるとか書いてあるのだが、学校管理員さん、給食配膳員さんの位置付け、先生方の負担を軽減するための職員の充実というのが、どこに書かれているのだろうと思うんです。</p> <p>すぐにはあれかもしれないですが、何かありますか。</p>
<p>笹本教育総務課長</p>	<p>確かに計画上でそういった文言を入れられるというのは、事務局としても、すごくいいことだとは思いますが、現実的になかなか予算の厳しい状況で、新たな予算を生み出すようなものを今回入れるのが、なかなか難しいというのも1つありまして、なので今ある状況をどうしたらより良い方向に行くのかなという観点での計画でもございます。</p>
<p>柳瀬委員</p>	<p>それで、今、気になったのは、会計年度任用制度になったから教育部局からも外れてしまったということがもしあるとすると、難しいなと思うんです。推進計画に入れられないとすると、どこでカバーするのかとか。</p> <p>すみません、これは本当に私もよく分からない、難しい問題だと思います。</p>
<p>森田委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、時間もなくなってしまうので、最初は1月5日までにまとめるのでしたか。</p>
<p>笹本教育総務課長</p>	<p>先ほどスケジュールでお話したんですが、1月20日ぐらいを目安にパブリックコメントを実施するとなると、その前に市の庁議でパブコメ案について御審議いただく形になります。</p> <p>資料作成も考えると1月5日ぐらいまでに改めて委員の皆様から指摘事項がありましたらメールで頂き、事務局の方で、改めてもう一度精査させていただければと思います。</p> <p>また、皆さまからの御意見によって大幅に内容が変わる場合には、策定委員の方にもメールで周知して、御意見があれば、その御意見を伺うような形で進めさせていただければと思っております。</p>

森田教育長	<p>それも含めると、5日までにやらないと間に合わないということですね。</p>
笹本教育総務課長	<p>はい。ですので、5日までに頂けると非常に助かります。</p>
森田教育長	<p>一度、策定委員会でも御理解いただいて提案させていただいた経緯もありますので、委員の皆様で、また、ぜひこのところを検討してほしいというところがありましたらメールで頂ければありがたいと思います。</p> <p>鈴木委員と小野村委員は、今日が最後になってしまうんですが、もし5日までにお気付きのところがありましたら、それまでにメールを頂ければありがたいと思います。それを基に最終案を決定して、もっと大幅な改正の必要があった場合には、策定委員にもう一回投げ返して、承認いただいた上で庁議にかけるように進めます。</p>
柳瀬委員	<p>その辺のスケジュールですが、教育委員が気付かないところで、市民からのパブリックコメントで考えなきゃいけないところが出てくると思うんです。最終決議の前に、パブリックコメントと議会の決議の前に、もう一回それを検討する必要があると思います。</p> <p>パブリックコメントに対して返事を書くと思うし、それによってもしかしたらある程度修正があるかもしれないときに、それについては承知しておきたいと思います。</p>
森田教育長	<p>その辺の進め方は、今後の流れによって、また相談させていただきなからやっていきたいと思います。御協力よろしくお願いします。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、4年間の任期を本当に誠心誠意、心を込めてやっていただいたお二人の委員から、色んな御意見や感想、今後に対する私たちへの叱咤激励でも結構ですので、頂ければと思います。</p> <p>では、まず鈴木委員からお願いします。</p>
鈴木委員	<p>御挨拶の前に、「その他」でお話したかったことを、1つ冒頭に。</p> <p>学区のことですが、意見として。今回新たにできる学校が何校かありますが、学区の中の位置で、学校が端っこになってしまいますよね。春日学園の時も、学園の森の時もそうでした。教育委員会としては、学校用地がそこにしかないという理由で仕方がないと行政として説明するし</p>

かないんでしょうが、市民として言わせていただけると、それはまちづくりの失敗だと私は思っています。どこに責任があるのかは分かりませんが、そう思われるという認識は持っていなければいけないなと思っています。

まず学区のことは意見としてお話させていただきました。

挨拶をとということなので。

私はすごく緊張症なので、そうは見えないかもしれないのですが、会議の時はいつも朝からお腹が痛くなって、お腹を壊しながら不安になって来ていました。ですが、今日の最後の会議まで、しかも皆勤賞で務められたことは、本当にほっとしています。

また、森田教育長が県から教育局長としてこちらにいらした際に、定例教育委員会の運営のことで、だいぶ御相談をして、その中で、何か「その他」で取り上げたいこととか提案したいことがあれば、1週間前くらいまでにメールで共有しましょうというお約束をしました。その件も、一回も欠かさずお約束を守れたことはよかったなと思って、ほっとしているところです。

4年前に、なぜか突然、五十嵐市長から「教育委員を」というお話があったときに、私は生意気にも「お飾りだったら引き受けません」とお答えしました。そうしましたら、「とんでもない。もちろん、率直な意見をどんどん言って、教育委員会の議論を盛り上げてください」ということで、私は引き受けたのですが、責務の重さを日々感じながら真摯に向き合って取り組んできた4年間だと自分では思っています。

なるべく短く話しますが、さて、この4年間、私は2つのことをずっと考え続けてきました。

1つは、「教育とは何なのか」ということです。その教育とは何なのかを考えると、私の中では2つの問いがいつも浮かびます。1つ目は、「私たちはどういう社会に生きたいのか、そして、子どもたちにどんな未来を残したいのか」という問いです。もう一つは、「子どもという存在はどのようなものなのか」という問いです。

この2つ目の問いは、教育の根本そのものだと私は考えています。普段から校則のこととか、色々と細かいこととお話し、自由とか主体性とか、意欲とかいうお話を何度も何度もここで申し上げましたが、私は、子どもというのは、可能性の塊で、どこまでも自由でのびやかな命そのもの、生を謳歌する主体そのものだと考えています。このような考えを教育大綱に盛り込むことができ、つくばの教育がそのような方向に向かっていることを、とても嬉しく思っています。

2つ目ですが、「教育委員会はどうあるべきなのか」ということも考え続けてきました。就任当初から、開かれた教育委員会を目指したつもりでいます。でも、この点については、まだまだ改善する点、努力しなければいけない点があると現状では思っています。開かれた教育委員会に向かってどうすればいいかというときに、私は、第一に、伝えること、それと聞くことだと思っています。

伝えることというのは、つくば市の教育がどのようなことを目指しているのか、どのような方向に向かっているのかを、丁寧に説明することです。そして教育長は、せっかく教育長になられたのですだから、そのお考えとか思いとかを、どうぞ情熱を持って発信していただきたいと思っています。

そして、このような定例教育委員会の場を傍聴していただくこともとても大事なことだと思っています。決まったことを発信するだけでなく、どのようなことが議論なされているか、例えば、そこに対立があったり混乱があったりしたとしても見ていただくということが、私は大事だなと思っています。

もう一つの聞くこととは、まずは子どもたち、保護者、現場の先生方、ひいては市民の皆さんの声をなるべくたくさん聞くことだと思っています。それには、それぞれが対等な立場で議論できることというのが、とても大事だと思っています。立場によって、余計な気を遣ったり、遠慮してしまったりして、自分の意見を言えないようでは全然駄目なので、どうぞ対等な議論を持てる雰囲気にしていただきたいと思っています。

最後に、4年前にうちの子どもたちは中学2年生と小学5年生でした。今、4年経って、上が高校2年生、下が中学3年生。この4月に両方とも高校生になります。同じ親から生まれてきたとは思えないほど、個性が違う2人なのですが、共通することが1つあるとすれば、学校であったこととか、先生のこと、友達のこと、どう感じたとか、どう考えたかということ、毎日のように話して聞かせてくれるところです。それはとてもありがたいことだと思っています。

そして、これはプライベートなことなので、後で議事録から抜いてもらうかもしれないですが、将来の夢は、上の子は小林りんさんのように自分の理想の学校を建てることだそうです。下の子は教師になることだそうです。

私がこれだけ教育に興味があるので、子どもたちも影響されているのかもしれないですが、若い力というのは本当に眩しくて、愛おしくて宝

	<p>物だなど日々思っていて、思うままに生きていってほしいなと願っているところではあります。もし1つだけ、彼女、彼に期待することがあるとすれば、先ほど柳瀬委員からもあった、「共感の力」、これを身に付けてほしいなと思っています。この共感というのは、シンパシーではなくて、エンパシーの共感です。シンパシーは同情とも訳される言葉ですが、エンパシーは、考えや信念が違う他者の感情とか経験とかを理解する力、能力です。あるいは、そういう他者が一体何を考えているんだろうと想像できる力、能力のことです。</p> <p>いくら自分の思うままに生きていくとは言っても、人は1人では生きていけないので、何かしらの他者との関わりの中で生きていくわけですから、この共感する力というのは、私は何よりも大事な力だと思っています。日々、子どもたちを育てているつもりです。</p> <p>相変わらずまとまらない話ですが、こんなことを考えています。</p> <p>つくば市の教育委員会は、だいぶ教育長も発信をしてくださっているし、だいぶ改善されていると思うんですが、もっともっと開かれて、保護者の方に関心を寄せていただき、期待をしていただき、そして発展していくことを、心より願っています。</p> <p>4年間、大変お世話になりました。どうもありがとうございました。</p>
森田教育長	<p>とてもいい話をありがとうございました。</p> <p>小野村委員、よろしくお願いします。</p>
小野村委員	<p>私も最初に質問したかったことに、ちょっとだけ触れさせていただいてから御挨拶させていただきたいと思います。</p> <p>先日、新聞で、つくば市の教職員の勤務状況調査が行われたという記事を見ました。ほかの市のものを見ていて、しっかりしている市は、やはりこうやってしっかりやるんだな、つくば市はどうかと思っていたら、つくば市も出てきたので、さすがつくば市だと思って見ていました。これは公開になるのでしょうか、内部資料になるのでしょうか。</p>
貝塚教育局次長	<p>公開しています。プレスリリースもしております。</p>
小野村委員	<p>そうですか。では後で拝見します。</p> <p>それから、もう1つ、評価について。現在の5段階評価とか観点別評価というのは、子どもたちの能力を正しく測定しているとは言えないと思います。例えば、ここに今、「直筆で読む坊っちゃん」という本があ</p>

るんですが、表紙には「漱石先生『漢字検定』不合格ぞなもし！」と書かれてあります。漢字が間違いだらけなんです。この人がもし、今の日本の学校に行ったら、恐らく国語が大嫌いになっていたと思います。

うちの教室にも、「漢字ができなくて学校に行くのが嫌です」とか、「単語が書けなくて学校に行くのが嫌です」と、不登校になる子もいっぱいいるんですが、この子たちは、答案用紙が白紙でも0点、一生懸命頑張っ、漱石さんのようにほとんどできているんだが、ちょっとしたところが間違っている、0点になるんです。今の方法だと、そういった子どもたちの、正答にはならないがそこに近づいている過程が評価されていないわけです。ほとんどの場合が。

今、ICTが活用されている中で、例えば漢字でも、今までのように1問2点で丸か×かだけではなくて、PCがそれを判断して、これは8割方できているな、読める漢字だなと思ったら8点あげるとか、へんやつくりのどちらかだけできていれば5点だとか、コンピューターが判断して丸を付けるようなソフトウェアができないものかなと思って、いつも見えています。

漢字1問10点満点にすると100点超えちゃうだろうと言われるんですが、テストなんて、別に1000点満点でも2000点満点でもいいわけで、それをどうしても100点に直したいというのであれば、それをパーセンテージに直すだけのことです。テレビ会議で授業をするなど、今、目立つところではICTを使っていますが、そこで頑張ったことをどう評価しているのかという、その評価という観点、ほとんど抜け落ちていると思います。

一方で、御存知だと思いますが、大学入試ではeポートフォリオが出てきて、子どもたちの情報収集が始まっています。これは、よくよく考えると、種苗法にも匹敵するぐらい大変な問題で、日本の教育がどうかなってしまうのではないかなと危機感を感じています。

考えてみたら、模試をやったり参考書を作っている会社が子どもの情報を全部集めてしまうわけですから、これは大変な問題だなと私は思っています。

ぜひ、つくば市では、問いから始める学びを始めたのであれば、過程を評価しなければいけないわけであって、その過程をどう評価していくかとなると、海外ではポートフォリオが学校の中で、企業が利益のためにポートフォリオを使っているのではなくて、学校の中で、先生たちの中からポートフォリオが生まれて有効活用されている事例が、イェナプランでもそうだと思いますし、イギリスでもだいぶしっかりできている

という話は聞きます。私もまだ不勉強で、細かいことは分からないんですが、ぜひつくば市では、今後その評価の在り方、子どもたちの頑張りをどう認めるかということ、研究していただけたらなと思っています。

あとちょっとだけ話をさせてください。

私は原稿を書いてきたので、そのまま読ませていただきます。

振り返れば、平成 29 年 1 月の総合教育会議が、私と鈴木委員の最初の公の業務であったかと思います。この時の議題は、秀峰筑波義務教育学校の開校時期でした。4 人の教育委員の意見が 2 対 2 に割れ、いきなり激しい議論が交わされました。その後しばらく、私たちは「教育委員会そして教育局内に、対立を引き起こしている」と、非難されたこともありました。「教育委員の仕事は、学校と教育委員会（正確には学校と教育委員会事務局のことだと思いますが）、これがやりやすいようにすることだ」と言われたこともありました。

しかし今、教育大綱の中には、「論理的に捉え、疑問を持ち、…より良い思考へつなげる批判的思考」であるとか、「建設的なコンフリクト（衝突・葛藤）を積極的に起こし、対話をしながら合意点を見つけ行動する」などと記されています。「コンフリクト」は「対立」と訳しても問題ない単語です。

先ほどの、「つくば次世代型スキル」の中には「問題発見力」とあり、先生方に関しても「問題意識を持ち、問い続けることのできる教職員の育成が重要課題である」と確認されています。

実は私自身、中学校の教師をしていたときに、県の学力診断テストの作成委員に選出されました。そこで私は、テストの大幅な改善を提案しました。ところが、張り切っていた私は、問題が完成する前に突然解任されました。「授業を変えましょう」と言うと、多くの先生方が、「テストが変わらなければ、授業は変えられません」と言うので、ならばテストを変えようと張り切って、勉強もして、こういうテストではどうでしょうかと出したわけですが、「そんなことをすると現場が混乱する」とお叱りを受けて、若く燃えていた私は、1 回のテストを作ることもできずに解任されました。これでは、もう何をやっても変わらないと思ったのが、私が教職を辞した理由の 1 つです。ほかにも理由はたくさんありますが。

その中で、今年 10 月には若手中堅の先生方と直接語り合う機会を設けていただきました。どうか今後もこのような機会を大切にいただき、現場の率直な声に耳を傾ける姿勢を貫いていただきたいと思います。

す。話を聞いていただけない先生は子どもの話を聞くこともできないと思います。子どもたちの話を聞ける先生を育てるためには、先生たちの声にしっかりと耳を傾けてほしいと思います。

もちろん子どもたちも同じです。私はLDを「Learning Differences:学び方の違い」と捉えています。先ほども御紹介した夏目漱石のような子には「漢字を書きなさい」というばかりではなく、つまり、苦手補強ばかりを強いるのではなくて、例えば、もうどうしても書けない子は、「書けなくてもいいよ、読めるようにしよう」と言いながら、タイピングで学べるようにすると、その子の可能性が大きく花開くことになります。私たちの教室からは、支援級にいながら、難関国立大学等に進んでいる子が何人もいます。

海外から帰国して、日本の学校文化に馴染めない子、校則に不信を抱いている子もいます。こういった子どもたちが、疑問や不信を言葉や態度にしたときに、私たちは、それを反抗という良からぬ行動だと取りがちです。

しかし、問いから始める学び、疑問を大切にするのであれば、そう謳っている以上は、このような声にも真摯に向かい合う必要があると思います。

子どもたち、そして先生方や保護者の声を聞き、それをこの場に届けること、それは教育委員にとっても、最も重要な役割の1つだと思っています。ずっと申し上げている、アドボケーターとしての役割です。そういった意味で、私は、鈴木委員がこの4年間で成した業績は、とても大きいのではないかなと感じております。

部活動の地域化が謳われるなど、学びの在り方は今後大きく変わっていくことでしょう。地域に暮らす人々と連携を深め、協働を推し進めることが大事だと思います。

子育てに悩む保護者がいれば、指導、助言などといった上から目線ではなく、地域のみんなで子育てを支えられるよう、地域とともにある「開かれた教育委員会」であってほしいと思います。

耳あたりの良くないことを申し上げたかもしれませんが、この4年間、私自身もとても貴重な勉強をさせていただきました。皆さんと一緒にこうやってお話できたことはとてもいい経験になりました。私はうっかりミスが多いので、御迷惑を掛けたこともあります。いつもしっかりフォローしていただいて、感謝しております。

子どもたちが宝なのであれば、子どもたちを支える先生も宝物です。その先生方を支える皆さんも宝物ですので、皆さんどうぞ、今後とも健

森田教育長	<p>康には注意されて、ますます御活躍いただけるようお願い申し上げます。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>鈴木委員も小野村委員も、今までの一生懸命だった気持ちが伝わってくる御挨拶をいただいて、本当に感激しています。</p> <p>鈴木委員には保護者の代表という役目で、それを貫いていただいて、細かな色んな学校の声や子どもたちの声を届けていただきました。私たちもそれを受け止めながら、改善できるところは改善したいと思いながらやってまいりました。</p> <p>小野村委員には、今までリヴォルヴ研究所に携わってきたときの色々な経験や教員であった時の経験とか、そういうところから、またこの教育を見直して、色々な視点から御意見をいただいて、それも私たちは真摯に受け止めて頑張っただけです。</p> <p>お二人に共通するのは、子どもの可能性を信じるという、その思いが貫かれているんだなと、そここのところを私たちはやはり大事にしないではいけません。教員として、そして教育委員会として、子どもが、この教育大綱に書かれているように、みんなが幸せになるような、そういう教育をしっかりとこれから実現していかなくてはならないなと思いを強くいたしました。</p> <p>開かれた教育委員会という意味では、だいたいこの4年間で変わったのではないかなと私も思っています。少しずつこの4人の教育委員さんの動きで、変わってきていると思います。開かれた教育委員会というだけじゃなくて、この議論の中身であるとか、それが教育に実際に反映するとか、そういうところが非常につながってきているなという実感は私には受けながら、まだ教育長としては1年ですが、そういう思いを持ちながら務めることができました。</p> <p>本当に鈴木委員と小野村委員には心から感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>4年間お疲れさまでした。ありがとうございました。</p> <p>皆さん、心を込めて大きな拍手をもう一度お願いしたいと思います。</p> <p>終わってしまうと名残惜しくなってしまうのですが、以上で定例会を閉じさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
-------	---